

公益財団法人日本バスケットボール協会
平成26年度 臨時理事会 議事録

日 時: 平成26年12月18日(木) 13:00~15:55

場 所: JBAオフィス 8F会議室

出 席: <理事>

丸尾充、梅野哲雄、西川和人の各副会長、星芳樹専務理事、河内敏光、熊谷秀樹、
倉石平、小坂悦夫、佐々木三男、鮫島俊秀、品田奥義、庄司義明、西井歳晴、野村俊郎、
原田茂、林直樹、福井晴次、堀井幹也、森野和泰、吉田長寿の各理事

<監事>

榊原みどり、高原洋太郎の各監事

<特任委員>

小倉恭志、片山正明、坂本昌彦の各特任委員

欠 席: 青木隆、岸本和巳、高橋雅弘、橋本信雄、吉田利治の各理事、内山英司特任委員

オブザーバー: 金井克仁弁護士

議 題

- (1) 今後の対応について

1. 定足数の報告

吉田(長)理事より出席者数の報告があり、定款32条に基づき、理事現在数(25名)の過半数の出席数(出席:18名)を満たすため、会議成立が宣せられた。

2. 挨拶

丸尾副会長(会長職務代行)より開会の挨拶があった。

3. 議事

議長は丸尾副会長(会長職務代行)が務め、議事進行は梅野副会長が行うこととなった。

(1) 今後の対応について (星専務理事他)

次の各項目について、報告、確認があり、意見交換を行った後、すべて了承された。

①緊急対策本部の設置について

・前回理事会においてFIBA対応担当となった梅野副会長を中心に緊急対策本部を設置する。

②FIBA関連について

・12月16日にバウマン事務総長が来日し、はじめに梅野副会長とのミーティングをもった。

・12月17日にJBA幹部とのミーティングを行った。FIBAタスクフォースは、将来へのビジョン等、JBAに対

して様々な方向性を示す役割を担うことになっており、JBAとしてはタスクフォースからの方向性を受けてJBA内で改革を進めていき、1日も早い制裁解除へ向けて努力する。また同時に、今後の取り組みについては、文部科学省、JOCなどの関係団体とも緊密に連携していく。

・FIBAからの制裁に関連し、タスクフォースの活動方針が明らかになるまでは、①組織改革、②新会長を含む新役員を選定、③リーグの統一問題についての活動を中断する。ただし、FIBAからも評価された今後のための内部総括等の作業は、引き続き進めていく。

・タスクフォースの改革案が示され、その後に会長を含めた役員選出が行われることになるので、それまでは現役員が責任をもって執行する。国内活動については、強化活動を含め、すべて今後も変更なく行う。

・タスクフォースにかかる費用については、JBAで負担する。

③全体総括について

・理事会を含む全体総括については専務理事を中心に作成中であり、1月の理事会にて報告する。

④統一リーグ関連について

・各リーグの財務状況については、NBL、bjリーグから財務資料の提出を受け、高原監事を中心に分析を進めている。各リーグへのヒアリングも実施し、1月の理事会に提出予定。但し、開示の仕方については配慮したい。

・新リーグ組織委員会の第三者メンバーのレポートについては、チーム代表者のヒアリングを含めて作成中。1月の理事会にて提出を予定している。

⑤国際活動について

・FIBAからの資格停止処分に伴い、当面の日本代表強化活動における海外遠征や加盟団体、連盟、加盟チームの国際活動(国際交流試合等)について禁止する。これについては、文書で通達を行う。

<承認>

4. その他

深津前会長の辞任に伴い、早期の次期会長選定を前提として会長職務代行を務めていた丸尾副会長から、FIBAの意向により会長選定がストップしている現状、ならびにFIBAバウマン事務総長の来日によりタスクフォースの役割等の詳細が判明したこと、また、NBL理事長職との兼務になっていることを考慮し、会長職務代行および副会長の職を辞したいとの申し出があった。

これについて意見交換を行い、判断は常務理事会に一任することとなった。

※理事会後に開催された臨時常務理事会において、会長職務代行は梅野副会長と交代し、丸尾副会長は副会長として引き続き職務を全うすることとなった。

以上